

極地の氷河溶解、人間活動が原因 東京大学

2012/7/23 22:02 | 日本経済新聞 電子版

東京大学の横山祐典准教授らは南極やグリーンランドで氷河や氷床が溶けている原因が、人間の活動による可能性が高いことを改めて解明した。過去に地球の回転軸がわずかに傾いた影響で溶け人間の活動とは無関係とする別の説を否定する内容だ。

青森県の下北半島で、地層が含む炭素の年代測定やプランクトンの分布調査から、過去の海面の高さを調べた。約1万9000年前の氷河期の終わりから続いていた海面の上昇が、約4000年前を境に止まっていた。海面の高さは4000年前以降から産業革命期までほぼ一定だと判明しており、人の活動と無関係に氷が溶けるならこの期間も上昇が続いたはずだという。

産業革命以降に二酸化炭素（CO₂）の排出量が増え、地球が温暖化して極地の氷を溶かしている可能性が高いとする考えが強かったが、観測データが十分ではなかった。

NIKKEI Copyright © 2012 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

